



第5代校長  
遠藤貫中



盛大に開催された創立50周年記念式典(昭和51年)

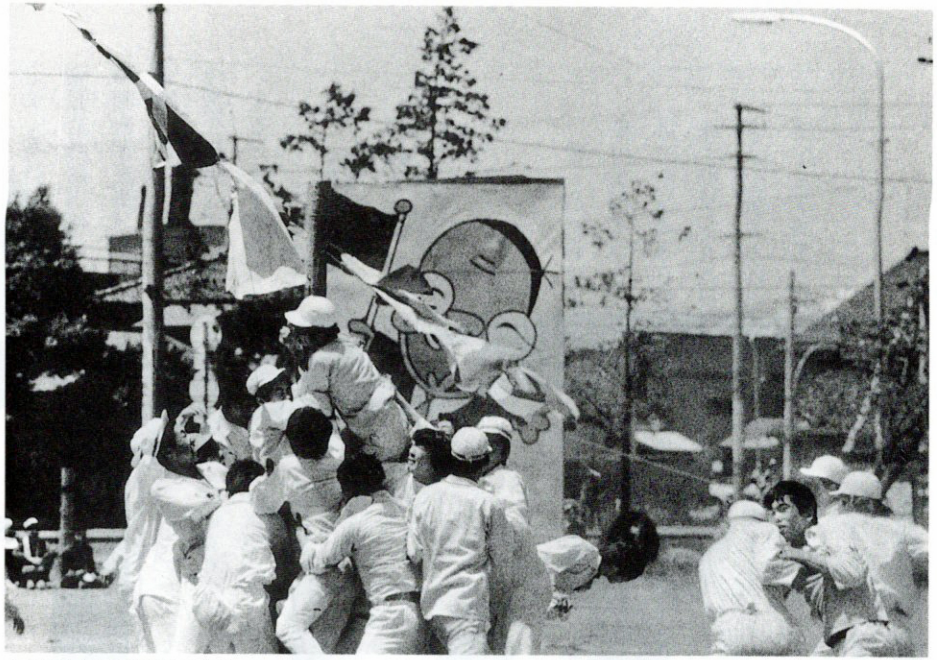
## 創立五〇周年を 迎える

昭和五十一年、本校は記念すべき創立五〇周年を迎えた。一月三日、学校としての創立五〇

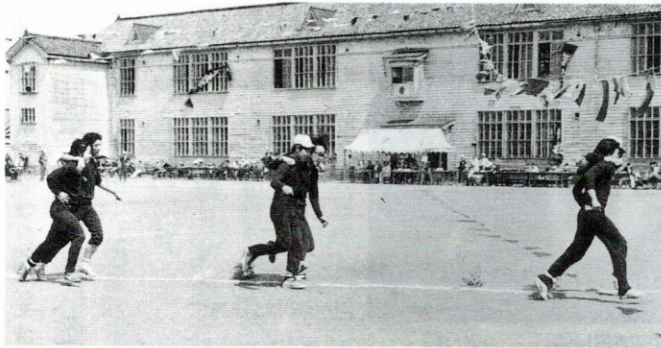




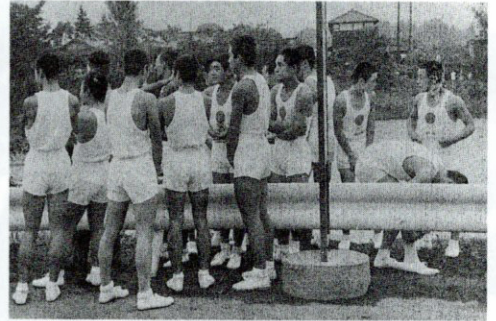
弁論大会で(昭和41年)



大運動会で(昭和47年)



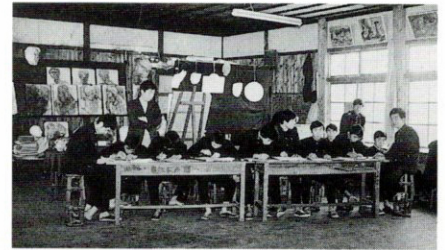
運動会で(昭和48年)



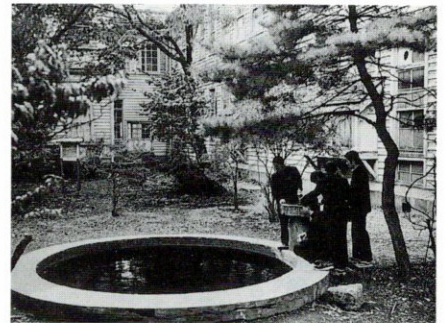
東京オリンピック聖火リレーのトーチを待つ  
(昭和39年)



石桜祭での演奏(昭和48年)



絵画の実技(昭和45年)



休み時間のひととき(昭和45年)



周年記念式典が挙行された。岩手奨学会・同窓会・PTAの関係者約二〇人が来賓として出席し、午前一〇時から式が始まった。

三田義一理事長は、夫人を伴って臨席し、壇上から生徒に対して、健康の大切さ、信頼関係の尊さを語りかけた。

続いて遠藤貫中校長が挨拶に立ち、本校五〇年の歴史にふれ、若者の英知と勇気への期待を述べた。

さらに本校に二〇年以上勤めた永年勤続者一名の表彰が行なわれた。

最後に生徒代表が、母校の栄誉と伝統に恥じないよう、いつそう心身の錬磨に努めることを誓った。

簡素ではあったが、列席者の胸になかく残る

式典であった。

とりわけ永年勤続者の表彰は感動的で、生徒たちは多くの職員が自分の生まれるまえからの学校にいたのだと知って、驚きとともに感謝の念を深めた。

事実、二〇年以上の永年勤続者が一人もいるというのは、本校の半世紀にわたる歴史の厚みを如実に物語る具体例に他ならなかった。

学校としての記念式典に先立って、一〇月には同窓会主催によるさまざまな創立五〇周年記念行事が盛大に開催された。その詳細は第三編の「同窓会の歩み」のページに譲るが、とくに触れておきたいのは、同窓会が記念事業の一環として企画した『石桜五〇年史』の編纂と刊行についてである。

それまで学校要覧や生徒手帳に沿革が簡単に記されてはいたものの、本校の輝かしい歴史を詳細かつ体系的に知ることのできる書物は皆無に等しかっただけに、母校半世紀の歴史を一冊にまとめた意義は大きい。

学校に保管されていた創立以来の貴重な資料の数々が、『石桜五〇年史』に収録されるのを待っていたかのように火災で焼失してしまったことを考えれば、なおさらである。

ここまでの記述も、内容の多くを『石桜五〇年史』に依っていることをお断りしておきたい。また第一章の創立者の伝記部分では、石桜振興会が平成四年に刊行した『三田義正 人材育成と果断の実業家』を援用させていただいた。